

高等科 1, 2 年 音楽

ヘンデル作曲 オラトリオ「救世主」について

メサイア

佐々木 順子 永野 馨

今回の女子部学業報告会では、初めての試みとして、高等科 1, 2 年は様々なプログラムから自分たちが興味を持った題材を選んで学びを深めることを行った。

音楽は、ヘンデル作曲 オラトリオ「救世主」(メサイア)を取り上げた。2018 年度が四年に 1 度の音楽会の年に当たっており、高等科生全員と学部生 1, 2 年生、有志はコーラス又は弦楽オーケストラのメンバーとして 2017 年、2018 年の 2 年がかりで「メサイア」の抜粋に取り組んでいる。この曲について知ることは学業報告会だけではなく、音楽会に向けての有意義な学びになると考えた。

I. はじめに

1 年生 4 名、2 年生 3 名、計 7 名がこの題材を選んだ。初めに「メサイア」のどのようなことに興味があって、何を調べたいかを全員で話した。各人の興味は①作曲家ヘンデルについて ②作品が誕生した頃の歴史的背景 ③「メサイア」で取り上げられている歌詞について ④音楽について のおおよそ 4 つの分野に分かれた。

その後、「ヘンデル」や「メサイア」に関しての本を各人が図書館から借り、読み取ったことを互いに発表し合った。その時に皆が調べたことは、次のようなことであった。

- *ヘンデルにはオラトリオ以外にどのようなジャンルの作品があるか
- *「メサイア」作曲時のエピソード
- *バロック時代とはどのような時代であったか
- *「メサイア」が誕生した時のイギリスはどのような状況であったか
- *「メサイア」はどのような構成になっているか、歌詞はすべて聖書からの引用であるが、聖書のどの部分から取られているか。

これらの点について疑問に思ったり、もっと知りたいと思ったことについて、互いに質問し合う機会を数回持った。

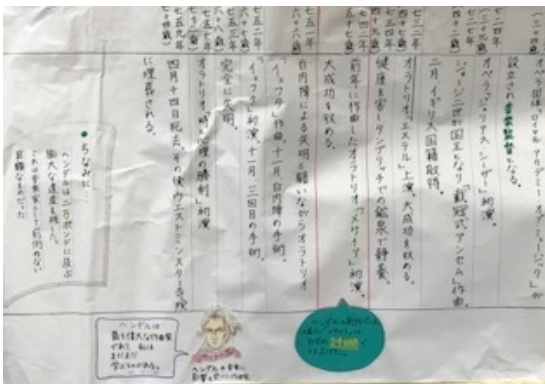
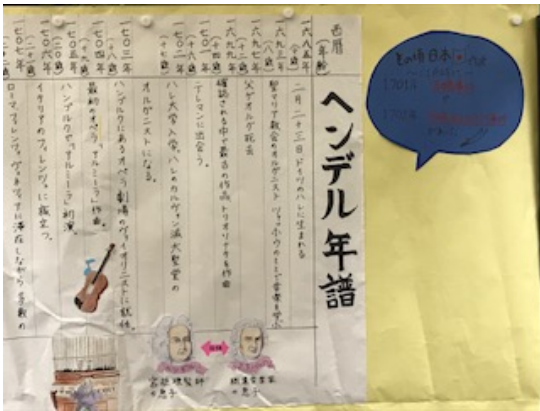
ここまで進んできた頃、本やメサイアに関する資料を読むだけでは理解することが難しい「キリスト教の考え方」についての理解を深める必要が明らかになった。そこで、牧師であり、生徒たちの同級生のお父様でいらっ

しゃる須田毅先生にいらしていただき、キリスト教とはどのような宗教なのか、「メサイア」は何を歌っている作品なのか、ということについて、わかりやすく話していただいた。今回の学業報告会で各人がどのようなことを調べているかをお話したり、須田先生のキリスト教についてのお話を伺う時間は、生徒たちにとって近い存在ではなかった「メサイア」という作品がぐっと身近なものに感じられるきっかけになったと思われる。

II. 報告会に向けて

学びを進めていくうちに、発表の仕方の方向もまともり、ヘンデルの生涯を年表にまとめるグループとパワーポイントを作成するグループ、「メサイア」についてのパワーポイント作成するグループの 3 班に分かれて実際の作業に取り掛かった。

年表をまとめるグループは、ヘンデルの生涯を目で見てわかるようにする工夫のほか、自分たちで描いたオルガンやヴァイオリンなど楽器の絵を入れ、「メサイア」が完成した年には、これも自分たちで描いたヘンデルの顔を書き入れ、立派な年表が完成した。



- * 48曲は3部構成になっており、第1部は神のひとり子が人間を罪から救うためにこの世に与えられる、という預言とキリストの誕生、第2部はキリストが人間の罪を負って殺されるが、3日後に甦る、という受難と復活、第3部は、神を信じるものに与えられる永遠の生命を歌っていること
 - * オラトリオとは何か
 - * ヘンデルがオペラ作曲家から転身してオラトリオ「メサイア」を作曲したこと
 - * クリスマス音楽会で歌う曲の歌詞とその意味
 - * 第48曲の「アーメン・コーラス」は歌詞が「アーメン」一語しかないが、音楽の作り方を工夫して3分ほどの曲に仕上げたこと
 - * フーガとカノンの違いについての解説
 - * 須田先生のお話にあったバッハの作品において、音型が下降している時は、神が天から地上に降りてこられたことを示すこと
- これらのことを盛り込んだ。

特筆すべきこととして、音楽の形式である「フーガ」と「カノン」の違いについて、わかりやすい例を用いて解説し、パワーポイントにおける大変高度な技術を用いて示していることをあげたい。

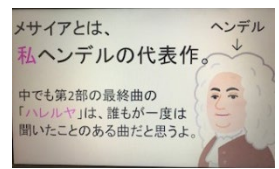
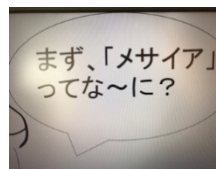
最終的に、「ヘンデルの生涯」と「メサイアについて」を一緒にして、一つの作品に仕上げた。

パワーポイント作成に携わったグループは、ヘンデルの生涯を担当する人たちと、「メサイア」とはどのような作品か、ということに迫ろうとする人たちの二手に分かれて画像作りに勤しんだ。「生涯」を担当した人たちは、ヘンデルや、ヘンデルと同じ年に生まれたバッハの顔写真を載せたり、強調したい部分にパソコン上の高度な技術を使って、見る人の目を引くように工夫を重ねた。「メサイア」を担当した人たちは、何も知らない子どもが「メサイア」について疑問に思ったことを作曲家ヘンデルに質問し、それにヘンデルが答える対話形式で「メサイア」という作品に迫ろうとした。誰もが知りたいと思っていることをヘンデルに問いかけ、自分たちが調べたことを作曲家ヘンデルからのメッセージとして発信した。その内容は以下の通りである。

- * 「メサイア」は全部で48曲あり、最も有名な「ハレルヤ」はその中の1曲であること
- * 「メサイア」の歌詞はすべて聖書から引用されていること

III. 展示発表の内容

記念講堂2階にある特別室の壁をはずして展示発表のグループのスペースとした。「メサイア」グループは、パネルにヘンデルの年表を貼り、スクリーンにパワーポイントの画像がずっと流れ続けるように設定した。



IV. おわりに

「メサイア」は規模の大きな作品である。「ハレルヤ」以外の3曲には、音楽とコーラスの授業で4月から取り組み始めたものの、音を取ることもそのものが難しく、また、歌詞が英語、しかも古語であるため、歌詞に慣れるまでもに相当の時間が必要だった。聖書から取られたテキ

ストの内容を学ぶ時間を取ることも難しかった。そのような状況の中で何を調べ、どのように「メサイア」に迫っていったら良いのか、この学びに取り掛かった当初、生徒たちは見当が付かなかったのではないかと思われる。

しかし、自分たちができる点から少しずつ調べ学習を進め、それらを合わせてまとめる過程では、各人が自分のアイデアを盛り込んで多くの工夫していた。そこには、「メサイア」のことを何も知らない人が見ても理解できるように、との思いが常にあった。

パワーポイントの文字の出し方や進み具合が速過ぎたり、1枚の画面に入れる文字が多過ぎて見辛いものがあったり、画面と共に流れてくる曲が「メサイア」以外の曲だったり、ちぐはぐになってしまった部分があったことは反省である。しかし、「メサイア」という作品を理解しようと生徒たちが立ち向かった成果は表れていたと思う。

また、学業報告会当日だけではなく、後日学部や男子部の授業でもこの画像を活用していただいたことは、携わった生徒たちにとって大きな励みになったことと思う。

2018年度は11月にいよいよ音楽会本番を迎える。パワーポイントの作品は、今後も少しずつ手直しを加えてより良いものにし、「メサイア」に取り組む一助として活用し、学業報告会での学びがさらに生きたものとなるようにしたい。